

## 期待と不安が交錯するペソ

メキシコペソは、7月1日の大統領選挙の不透明感、貿易摩擦、米国国債利回りの上昇を背景に4月中頃からペソ安傾向でした。しかし、足元急速にペソ高傾向に転じています。

### 新興国通貨：貿易摩擦、米国金利上昇を受け全般に騰落率はマイナス

主な新興国通貨の騰落率を年初来で見ると、ほぼマイナスとなっています(図表1参照)。米連邦準備制度理事会(FRB)の金融正常化(利上げ)政策、貿易摩擦の悪化等が新興国通貨下落の共通要因と見られます。加えて、政局もしくは政策動向が不透明なブラジルやトルコ、厳しい財政状況のアルゼンチンはとりわけマイナス幅が大きくなっています。

一方で、メキシコ、コロンビアは新興国通貨の中では珍しく、年初来の騰落率がプラスとなっています。

### どこに注目すべきか：大統領選挙、NAFTA、CME、通商交渉

メキシコペソは、7月1日の大統領選挙の不透明感、貿易摩擦、米国国債利回りの上昇を背景に4月中頃からペソ安傾向でした(図表2参照)。しかし、足元急速にペソ高傾向に転じています。

メキシコペソの回復要因を振り返ります。

まず、大統領選挙を巡る不安要因が後退したことです。選挙戦を常に優位に進めてきたロペスオブラドル氏は選挙期間中、バラマキ政策を示唆していたことが市場の不安要因でした。しかし、勝利後の演説では財政規律や中銀の独立性を守ると発言、市場では疑問を抱きながらも一安心となっています。

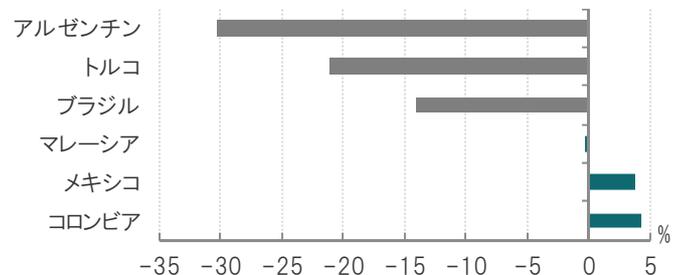
大統領選挙をめぐって、ロペスオブラドル氏は選挙期間中、米トランプ大統領に挑発的な発言を繰り返していた時期もあり、当選後の米国との関係も不安要因でした。しかし、ロペスオブラドル次期大統領(就任は12月)は当選後、米トランプ大統領との関係を改善している模様です。米トランプ大統領は18日、メキシコとの二国間貿易協定をカナダより優先させる可能性があることなどから関係改善がうかがえます。もっとも、北米自由貿易協定(NAFTA)再交渉の当事国のひとつのカナダと米国がギクシャクしているので、米国は交渉のためメキシコとの良好な関係を演じているだけなのかもしれません。いずれにせよ、政権発足後、

いきなり米国と険悪な関係になることは回避できるとの観測が台頭しています。

次に、投機家筋のポジションをシカゴ・マーカンタイル取引所(CME)の通貨先物市場で見ると、一時ネットでマイナス(ショート)ポジションとなっていたことが、6月中頃よりプラス(ロング)ポジションへと転じています。ペソ先高期待のポジションが積み上がりつつあります。また、残高水準は1年ほど前に比べ低く、今後の環境次第では買いポジションが積み上がる余力を残しているように感じられます。

ただし、メキシコの経済環境は厳しい面もあります。加えて治安の悪化や通商政策への対応も求められ、安心には程遠いと思われます。経済についてはインフレ率は6月の消費者物価指数が前年同月比4.65%と、メキシコ中銀のインフレ目標(3%)を上回る一方で経済成長率は前年比1%台と低水準です。NAFTA再交渉など米国との対話が本格化するのこれからです。経済、通商交渉、金融政策を変動要因に、ペソは期待と不安が交錯する状況と見ています。

図表1：世界の主な新興国通貨(対ドル)レートの騰落率  
期間：2017年12月29日～2018年7月18日、上位3国と下位3国



図表2：メキシコペソ(対ドル)レートとCME先物ポジション  
日次、期間：2017年7月18日～2018年7月18日

